Ｎｏ．１４８　　腺癌（膵癌の転移）

熊本市医師会検査センター　　岩田 那月

①症例：８０歳代女性

②既往歴：６年前に膵尾部癌で手術歴あり。

③臨床経過：CT にて右肺中葉に４０×２６mm の腫瘤と、両肺野に多発する結節影を認め、
精査加療目的に入院となった。
Ex－smoker　１０本×３８～７９才

④検体：ＴＢＡＣ

⑤細胞診所見
解答スライド３，４枚目は好中球やリンパ球を背景にシート状の細胞集塊がみられる。
集塊の細胞には細胞境界が見られ、胞体はレース状で粘液を有し、Ｎ／Ｃ比はあまり
高くないが核間距離不均等で核の大小不同があり、核の弯入がみられるものもある。
スライド７枚目は先ほどよりも細胞境界がみられ、胞体に豊富な粘液を持つ細胞集塊がみられる。Ｎ／Ｃ比はあまり高くないが、核間距離不均等で核の大小不同がみられる。
スライド８枚目は他よりもコンパクトな集塊であり、集塊の細胞には細胞境界がみられ、集塊内や集塊の辺縁に粘液を認める。また、集塊内の細胞には配列の乱れがあり、
核形不整がみられる。

⑥組織所見
高円柱状の異型細胞からなる乳頭状の細胞集塊がみられる。細胞質は好酸性で核は軽度腫大しており、核の大小不同や核形不整がみられ、クロマチンは増量している。

⑦鑑別点
・線毛円柱上皮の集塊は、異型のない線毛円柱上皮からなり、集塊の辺縁には線毛が
みられる。
・杯細胞増生は集塊内の殆どが杯細胞であり、粘液を持った異型のない細胞が見られる。
・異型腺腫様過形成は採取される細胞量は非常に少なく、孤在性や小集塊で出現する。
これらの細胞は小型で細胞質はレース状で、核は類円形で核内封入体や多核の細胞が
見られるのが特徴であり、クロマチンの増量や核異型は目立たない。本症例と比較すると、本症例は集塊の細胞数が多く核の大小不同や核形不整などの核異型がみられるため、鑑別ができる。また、異型腺腫様過形成は本症例のようなＣＴ像を示さないことからも鑑別できる。
・原発性肺腺癌は重積性のある集塊で、Ｎ／Ｃ比が高く、核の大小不同や核形不整、核縁の肥厚がみられる。核のクロマチンは微細顆粒状で、明瞭な核小体が認められる。
本症例と比較すると、原発性の肺腺癌は明らかに異型が強いことから鑑別できる。
原発性肺腺癌のうち、浸潤性粘液産生性腺癌は重積性のないシート状集塊で、細胞境界
明瞭で豊富な粘液をもち、核の切れ込みやしわが見られる。比較すると、本症例の方が
粘液は少なくＮ／Ｃ比は低いが、核間距離不均等がみられ核異型は強い。本症例では
スライド８枚目のような膵癌に特徴的なコンパクトな細胞集塊も出ていたことから、
膵癌の肺転移だと診断できた。
また本症例では膵癌の既往があることがわかっていたこと、ＣＴ像が明らかに浸潤性
粘液産生性腺癌とは異なることから鑑別ができた。